

本件の取扱いについては、下記の解禁時間以降でお願い申し上げます。

新聞： 日本時間 4 月 3 日（月）朝刊

テレビ・ラジオ・インターネット：日本時間 4 月 3 日（月）午前 9 時

## 北海道大学病院で神経内分泌腫瘍(NET)専門外来を開設

神経内分泌腫瘍=Neuroendocrine tumor (NET)

### ポイント

- 神経内分泌腫瘍は比較的若年の肺、消化管(胃、十二指腸、小腸、直腸)、膵などに発症し、肝転移など進行例も多いが、適切な治療により高い生存率が得られる疾患である。
- 適切な治療には腫瘍・消化器内科、外科、放射線・核医学診療科などが集まり、専門チームで取り組むことが必要である。
- 近年開発された分子標的薬や抗腫瘍薬、新たな診断機器が保険診療の適応になるなど、本疾患に関わる環境は刻々と変化しており、最新の知見を治療に反映させることが重要になる。

### 概要

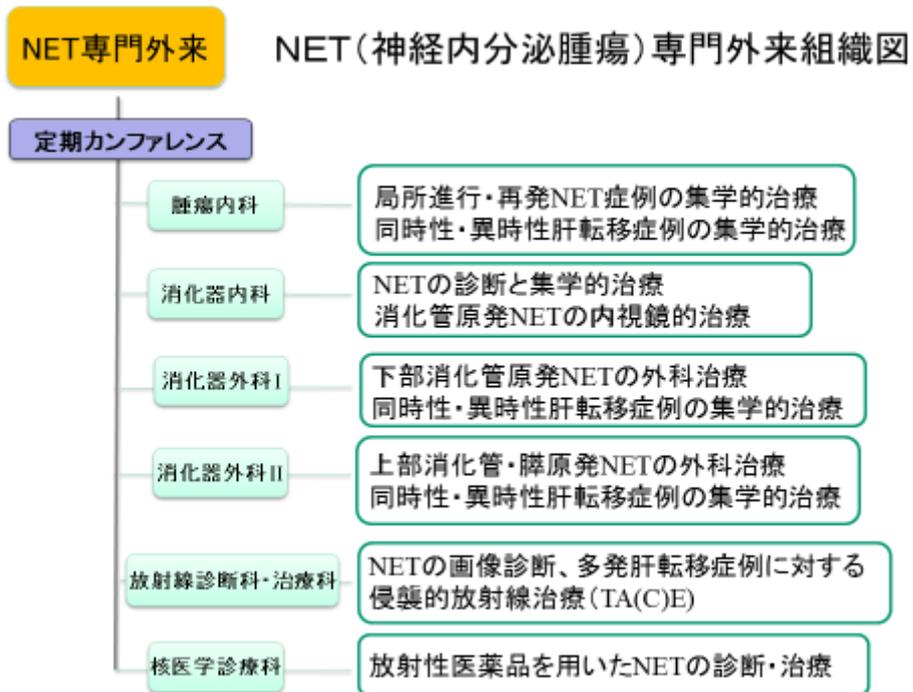
最新の集学的治療戦略を患者に適用する上で、的確な診断、外科手術の種類とタイミング、化学療法における薬剤の選択などを検討するためには院内各診療科の連携が必要であり、それら関連診療科連携によるチーム医療を掲げてNET専門外来を開設し、個々の患者に対して一貫した治療方針で診療に臨むことで良好な治療成績をもたらす事を目的とする。

### 背景

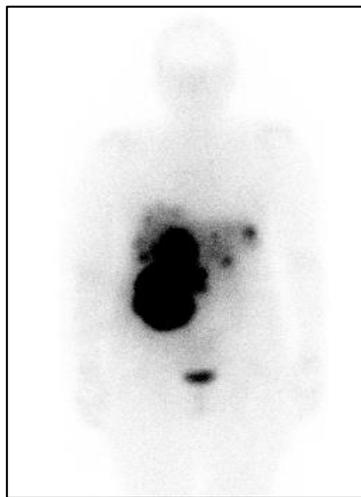
神経内分泌腫瘍は比較的稀な疾患であるが、近年徐々にその罹病率が増加している。本腫瘍は悪性度の低いものから高いものまで種々存在するが、高度悪性の症例でも比較的長期の予後が見込めることが特徴である。治療は、外科的根治切除が治療の第一選択であるが、遠隔転移例や手術適応がない症例には近年、分子標的薬、抗腫瘍薬、放射線療法などを組み合わせた集学的治療法の開発が進んでいる。長期にわたる診療経過の中で、腫瘍の存在診断は重要である。当院には、2016年に保険収載されたばかりの全身的診断法であるオクトレオスキャンが設備されており、適切な集学的治療法の選択に効果を発揮している。

一方、原発部位が肺、消化管(胃、十二指腸、小腸、直腸)、膵と多彩なことから、初診時の診療科が多岐に亘り、加えて病状の進行に伴って担当診療科が複数となったり、初診時とは全く異なってしまうことも

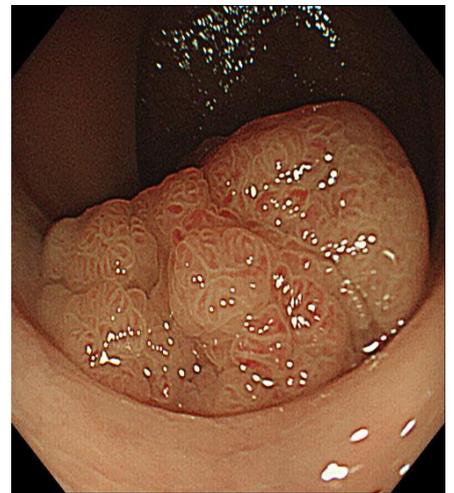
多い。さらに、新規治療法や治療方針が日進月歩で進歩している現状から、地域医療機関などで長期にわたり治療に難渋している症例を含め、病状に適した最善の治療を提供し、患者のトータルケア(サポート)ができるシステムとして、多診療科横断的なNET専門外来を開設することとした。



膵に発症した巨大NET  
(CT像)



オクトレオスキャン像  
(左と同一症例)



直腸NET(内視鏡像)

**お問い合わせ先**

北海道大学病院消化器外科 II 土川 貴裕

TEL : 011-706-7714    FAX : 011-706-7158    E-mail : tsuchi-t@med.hokudai.ac.jp